

皆

様に、謹んで新春のお慶びを申し上げます。さて、昨年は福智町にとって、町づくりの基盤が強化できた一年であったと感じています。

3月に開館した図書館・歴史資料館「ふくちのち」は、年間目標来館者の10万人を7か月で達成。皆さまに育まれ、まちの「小さな拠点」にふさわしい機能や魅力が高まっています。「雇用定住促進」では、立地協定で百人弱の町内雇用を創出。第3子以降の保育料完全無料化や住宅取得奨励金制度も実現しました。「地域ブランド化」では、九州最大規模の「福智スイーツ大茶会」を開催。特に「ふるさと納税」は3年連続で10億円を突破し、特産品開発や町のPRにつながっています。また、広域連携による観光列車の実現や民間ツアーで約1千人の観光客が訪れるなど着実な成果も残しました。一方、甚大な被害を県内にもたらした北部九州豪雨を教訓に、災害に強い地域づくりの重要性を再認識した年でもありました。

これからの福智町の未来を見据えたとき、厳しさを増す諸課題や可能性と向き合い、果敢に挑戦し、事を成す実行力と未来を拓く突破力の必要性を痛感します。私たちが今後直面していく様々な壁を乗り越えるためには、地域づくりこそ核となります。地域自治と行政による共助や協働が不可欠になると考えています。

この地域再生をはじめ、町の未来そのものである子どもたちへの教育。老後の安心を支える認知症サポート。成長産業への押し上げを推進する農業振興など、あらゆる施策を駆使し「誰もが夢を描ける誇りある町」を目指して、皆様と共にまちづくりを進めたいと決意しております。

この新年が町民の皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年となりますよう、心より祈念申し上げます。

新

年あけましておめでとうございます。平成30年の年頭にあたり、福智町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、記録的豪雨による自然災害が発生し、7月の福岡・大分両県に甚大な被害をもたらした九州北部豪雨など、今もなお、日本各地に大きな爪痕を残しています。

なお北朝鮮による弾道ミサイルへの緊迫状態はまだ続くことが懸念され、初めて本格的にJアラートが活用されました。

また昨年は、暗い出来事が続いた中にも「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群が世界遺産になるなどの明るい話題もありました。

福智町へ目を向けますと昨年3月に開館しました図書館・歴史資料館「ふくちのち」では来館者数が10万人を突破し、今までの図書館とは違った形態になっていることが注目され、各地から視察の問い合わせが多数きております。蔵書数が少ないという声も耳にしますが、本屋さんがない福智町にとって本にふれ、勉強ができ、趣味が高まる本場にいい場であると思います。

我々議会としましては、福智町の一つのまちづくりの拠点として、町執行部と互いに意見を出し合いながら町政運営や監視に努力してまいりる所存であります。

今年3月には町長選挙も行われます。

今後多難な財政状況と、依然として厳しい環境ではございますが、町民の皆様の更なるご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げますと共に、新しい年が皆様方にとりまして輝かしいものでありますようご祈念いたしましたして、新年のご挨拶いたします。



福智町長 嶋野 勝



福智町議会議員 矢野 博文

New Year's greetings 2018

年頭のごあいさつ